

教科名		理 科	教科書調査報告
発行者名		東京書籍	大日本図書
調査の観点			
A 内容について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入部分に「思い出そう」という欄が設けられたり、本単元に関連する生活経験や他教科等も含めた既習事項が記載されたりするなど、単元配列も指導事項を積み重ねる構成になっている。 観察や実験における「やり方」で二次元コードからアクセスできる動画があり、観察・実験の手順を確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科の問題解決の学習過程を色分けして示し、児童が現在どの段階を学んでいるかが分かりやすくなっている。 単元の最後に「たしかめよう」で、自分の学習の習得状況を自ら確認できるようになっている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 単元における問題解決の学習過程が「問題をつかもう」「予想しよう」「計画しよう」「考察しよう」という形で明示されている。 予想や考察の例示を示すことで既習事項との関連や着眼点に基づいた思考力・判断力・表現力等の育成に向けた一助となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の学習過程を教科書左側の「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」で色分けしたラインで示したり、理科の見方や考え方が、「ココに注目」や児童のつぶやきに表現され、児童が考える際のヒントになるポイントが掲載されたりして、児童が問題解決の流れを意識しながら学習を進められるような構成となっている。 単元の導入ページでは、問題作りに生かせるように、AとBの写真の比較から学習が始まるようになっている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 資料の最新情報が、2019年～2020年である。 登場する人物が、外国にルーツがあることや障害の有無、性別による区別がなく掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 二次元コードを掲載し、事象提示や実験の内容や方法などが、動画で確認できるようになっている。 「タブレットを使ってみよう」でタブレット端末の活用方法について紹介するとともに、単元の中でもタブレット端末を使った場面例の紹介がある。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> 各単元末のページに「理科の世界 探検部」という学習コラムが掲載されており、その内容が巻末でSDGsの17の目標との関連が示されている。 「大地のつくりと変化」の単元を1と2に分け、災害や減災について考える単元が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ペットボトルのリサイクル」や「地域のメダカを守ろう」、「命のたんじょうに寄りそう産婦人科の医師の仕事」など、持続可能な社会の創り手の育成に向けた様々な内容を自分事として考えることができるよう、資料が活用されている。 各単元には「sciense world」「りかのたまてばこ」という資料が掲載され、それぞれがSDGsやESDの理念に基づいた内容になっている。
B 使用上の便宜について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「学習の流れ」の中に「QRコンテンツ」が示されていて、「デジタルノート」など児童が自ら課題や疑問を解決することに活用することができる。 タブレット端末のアイコンを記載し、理科における1人1台端末の活用方法が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【みつけよう(問題を見つけよう)→調べよう(予想しよう・計画を立てよう・調べよう・記録しよう)→伝えよう(考えよう・まとめよう)】の問題解決の学習過程が示されている。 カラーユニバーサルデザインやUDフォント、フォントサイズや太字・細字が効果的に使われていて、文字情報が読みやすい。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 5年「流れる水」では、災害の内容を扱い、地域の川として、多摩川が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「多摩川」や「多摩市のイルミネーション」の写真が掲載されている。

教科名		理 科	教科書調査報告
発行者名		学校図書	教育出版
調査の観点			
A 内容について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「できるようになりたい」では、その単元で身に付けたい力が明示されている。 ・「問題」や「わかったこと」が枠で囲まれていて、視覚的に児童が学習過程を理解しやすくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末の「ふり返ろう」では重要な用語にマーカーが付されている。 ・「学習したこと」では、写真と学んだ内容を1ページにまとめて振り返りやすくなっている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題を見つけよう」では、吹き出しで児童の意見を明示し、問題を見付けるための話し合いの道筋が示されている。また、実験や観察を通して、分かったことを相手に説明する活動を設定し、自分の学習を振り返ったり、整理し直したりする工夫がされている。 ・巻頭に領域別に単元ごとの学習内容を示すとともに、働かせる見方・考え方についても触れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れが、問題→予想→計画→観察・実験→結果→考察→結論で構成されており、見通しをもちながら自分がどの段階を学んでいるのかを確認できる工夫がされている。 ・「〇年のチカラ」として、当該学年で主に育成する問題解決の力について児童に意識させるような工夫がされている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020オリンピック・パラリンピックや自動ブレーキシステム、LED、外来生物など、現代に注目されている事柄に触れるコラムがある。 ・「ICTマーク」を掲載し、ICT機器を活用すると効果的に活用できる場면을明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料電池バス、電気自動車、海洋プラスチックごみなど、現代に注目されている事柄に触れるコラムがある。 ・タブレット端末を使った実験の記録の仕方のページがある。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・裏表紙に、各単元で学習した内容と関連するSDGsの17の目標のアイコンが示されている。 ・地球温暖化や外来生物など、写真や具体的なデータを基に児童が持続可能な社会づくりについて考えることができる資料「もっと知りたい」に掲載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードまなびリンクから「SDGsずかん」にアクセスでき、索引でSDGsと関わっているページを調べることができる ・「科学のまど」の欄にESD、SDGsの関連する項目がSDGsの17の目標と関連する形で示されている。
B 使用上の便宜について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の学習過程で育成を目指す「資質・能力」が「理科モンスター」のキャラクターとして示されるとともに、問題解決の流れや前年の学習内容を踏まえたページ構成となっており学習の流れがつかみやすい。ページの左側の学習過程を明確化してある。 ・手順を短く具体的に分かりやすい言葉で示したり、顕微鏡の使い方など基礎技能について二次元コードで動画が確認したりできるよう工夫されており、インクルーシブ教育の視点に基づいて構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭にノートの取り方、考え方、学び方などがまとめられ、実験・観察ページと結果・考察ページが別となっており、それぞれの学習過程において、自分で考える時間をもつことができる。 ・「広がる科学の世界」では、中学校とのつながりも記載されているため、6年生になっても先を見通した学びができる。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川の河原の石やコンクリートの堤防の様子の写真についての掲載がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生の「流れる水と土地」の単元に、多摩川で記録した雨量のグラフが記載されていて、上流が青梅市の御岳、下流が調布市の石原になっている。

教科名		理 科	教科書調査報告
発行者名		新興出版社啓林館	
調査の観点			
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の冒頭に「思い出そう」の欄があり既習事項が確認できるとともに、二次元コードからも既習事項が確認できる。 ・実験器具の使い方が二次元コードを使って、動画で確認できたり、「まとめノート」というページで、身に付けるべき学習内容が確認できたりすることで、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができる。 	
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の学習過程において、気付いてほしい点が「学びのサイクル」と「学びのライン」を、記載し、明確にしたり、深い学びのヒントを見える化した「見方・考え方マーカ―」を示し、見方・考え方の活用場面について触れたりしている。 ・見本となる児童のまとめのノートが掲載されていて、表現力を高める手だてとなっている。 	
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ハヤブサ、サステナブルファッション、食品ロス、ヤマトサウルスなど、現代の科学的な事象がコラムにあり、科学への興味を高められる。 ・児童の直接体験を通した学びを大切にしつつ、学びの中で効果的にICTを活用する例を活用の目的とともに掲載している。 	
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「くらしとリンク」というコラムでは、実社会や実生活とのつながりを意識したページを掲載するとともに、教科等横断的に総合的な学習の時間や防災教育等に生かすことのできる構成となっている。 ・SDGsに関連する題材には、関連する目標のマークを示し、さらに特設サイト「わくわくSDGs」で、より詳しい情報を知ることができる。 	
B 使用上の 便宜について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然の不思議見つかるかな?→問題をつかもう→問題→予想→計画→観察・実験→結果→結果から考えよう・考察しよう→まとめよう→もっと知りたい→次の問題へ」という問題解決の流れを踏まえてページが構成されており、学習の流れがつかみやすい。 ・協働的な学習場面の提示を4年「電気のはたらき」、5年「ふりこのきまり」などで示している。 	
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣市の画像や5年生の単元で多摩川の写真が掲載されている。 	